

～ただいま後期研修中～

倉敷中央病院 麻酔科 渡邊洋平 (22期生)

同窓会のみなさん、こんにちは。22期生の渡邊洋平と申します。3月11日、東北地方では未曾有の大地震が起きました。被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。幸い私の地元、岡山は『晴れの国岡山』と呼ばれるほど気候に恵まれており、地震や台風などの天災もほとんど経験しない地域です。私が生まれ育った倉敷市も例外ではなく、今のところ日々の生活に大きな変化は見られません。そんな中、ちょっと昔のことを思い出しました。琉球大学へ進学を決めた時のことです。高校を卒業するまで平穏な毎日を過ごしていた私でしたが、大学進学のとおりになりそのような生活に不安を覚えました。全国では自然災害に適応しながら生活している地域がある。そんな経験が自分にも必要ではないか。まだ私が幼かった頃に祖父が沖縄旅行中に脳梗塞で倒れ、那覇市立病院に入院していたこともあり、沖縄との縁を感じ琉球大学への進学を決めました。

沖縄での生活は本当に驚きの連続でした。気候の違いはもちろん、言葉や文化の違いに大きな衝撃を受けました。6年間の大学生活を満喫し、沖縄の地域医療も経験したいという思いから沖縄市にある中部徳洲会病院で初期研修を始めました。『See one, Do one, Teach one』を合言葉に、初期研修医が先頭に立って上級医の指導のもと患者さんの診療に当たりました。救急外来は『習うより慣れろ』。月10回以上の当直で揉まれました。『年中無休、24時間オープン、救急車は断らない』徳洲会のスタイルは魅力的でした。研修医2年目には僻地・地域医療研修として山形県庄内町の庄内余目病院で2ヵ月間お世話になりました。そこには医療過疎地でも明るくたくましく生き、そして死を受容する人々の姿がありました。徳洲会で過ごした2年間は本当に充実した日々でした。

初期研修を終え、現在は地元倉敷にある倉敷中央病院、麻酔科で後期研修医として勤務しています。大正12年に大原孫三郎氏によって創設され、現在では病床数1151床、手術室23室、医師数428人(うち

初期研修医54人)にまで発展した巨大病院です。その中で、麻酔科は23人(うち専門医13人)で手術室と集中治療室を運営しています。年間総手術件数は約11000件で、そのうち麻酔科手術件数は約7000件。後期研修の環境としては申し分ありません。消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科をはじめ、小児外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻科、眼科、形成外科があり、小児心臓外科手術と移植手術を除くほぼ全ての外科系手術を経験することができます。研修目標は後期研修1年目で心臓血管外科手術以外の麻酔を研修し、2年目から心臓血管外科麻酔が始まり、後半からICUでの研修を行い、3年目では麻酔科当直医として深夜の緊急手術とICU対応ができるようになることです。

当院では多くの大学医局からの派遣があります。麻酔科にも琉球大学麻酔科から毎年研修に来ていただいております。医局で沖縄の思い出話に花が咲くこともありました。残念ながら来年度からの派遣は未定とのことですが、また再開していただける日を楽しみにしています。

後期研修も2年目を迎えました。まだまだ理想とする医師像には程遠く苦悩の連続です。それでも部長をはじめ多くの先生方が真剣に指導して下さることに感謝して、これからも邁進していきたいと思っております。



倉敷美観地区にて妻と